

生活実態に着目した免許返納に関する研究

社会システム計画学研究室2012年度修士研究 山本和生

研究の背景



人間は高齢になると判断力や身体機能が低下、認知症の症状が見られる場合もあるそのため、**高齢ドライバーは事故の危険性が高まる**

高齢ドライバーの引き起こす交通事故を防止する目的で平成10年から**運転免許返納制度**という取り組みが行われている

しかし、モータリゼーションの進展により特に地方都市・郊外部・中山間地域では**公共交通の衰退・商業施設の郊外立地**



生活を車に依存する地域が多く存在する「**返納したいが、生活のためには車が必要**」という人も少なくない

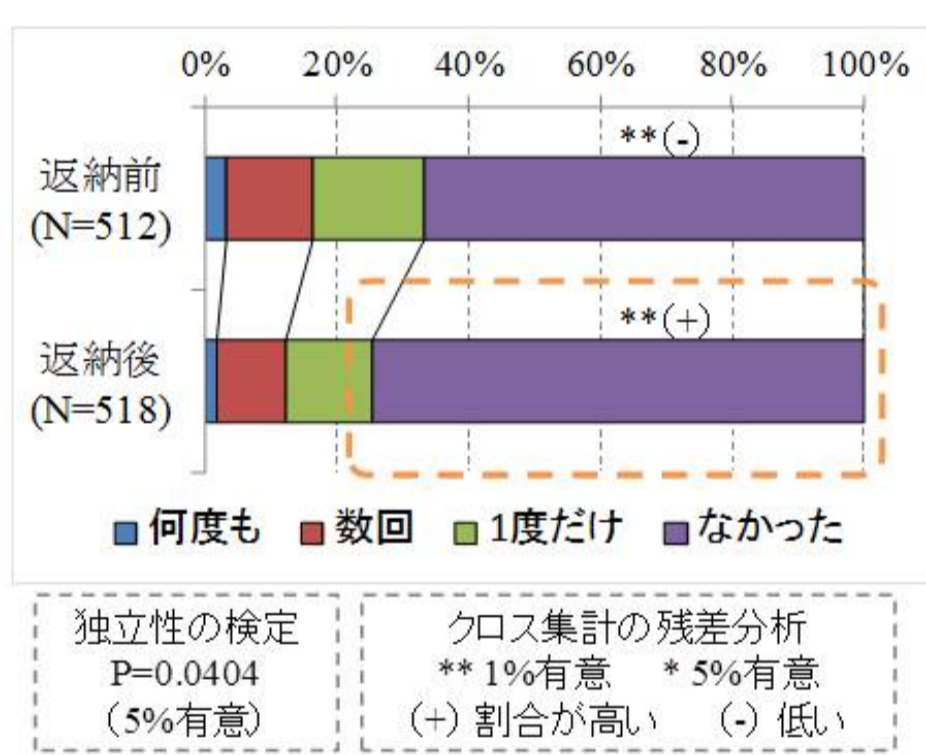
運転をやめた後も安全に安心して暮らすことのできる環境を整備していくことが求められている

研究の目的

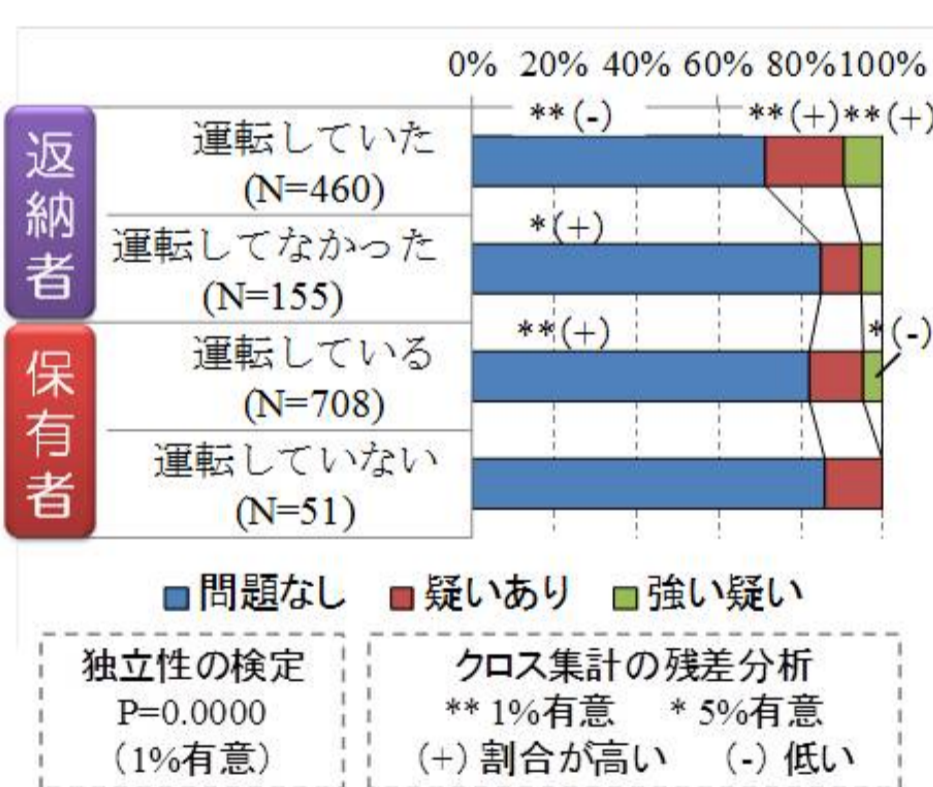
本研究では、**免許返納の現状**について整理し、**返納に対する意識や返納を行う上で重要となる要因**を明らかにすることを目的とする

分析結果

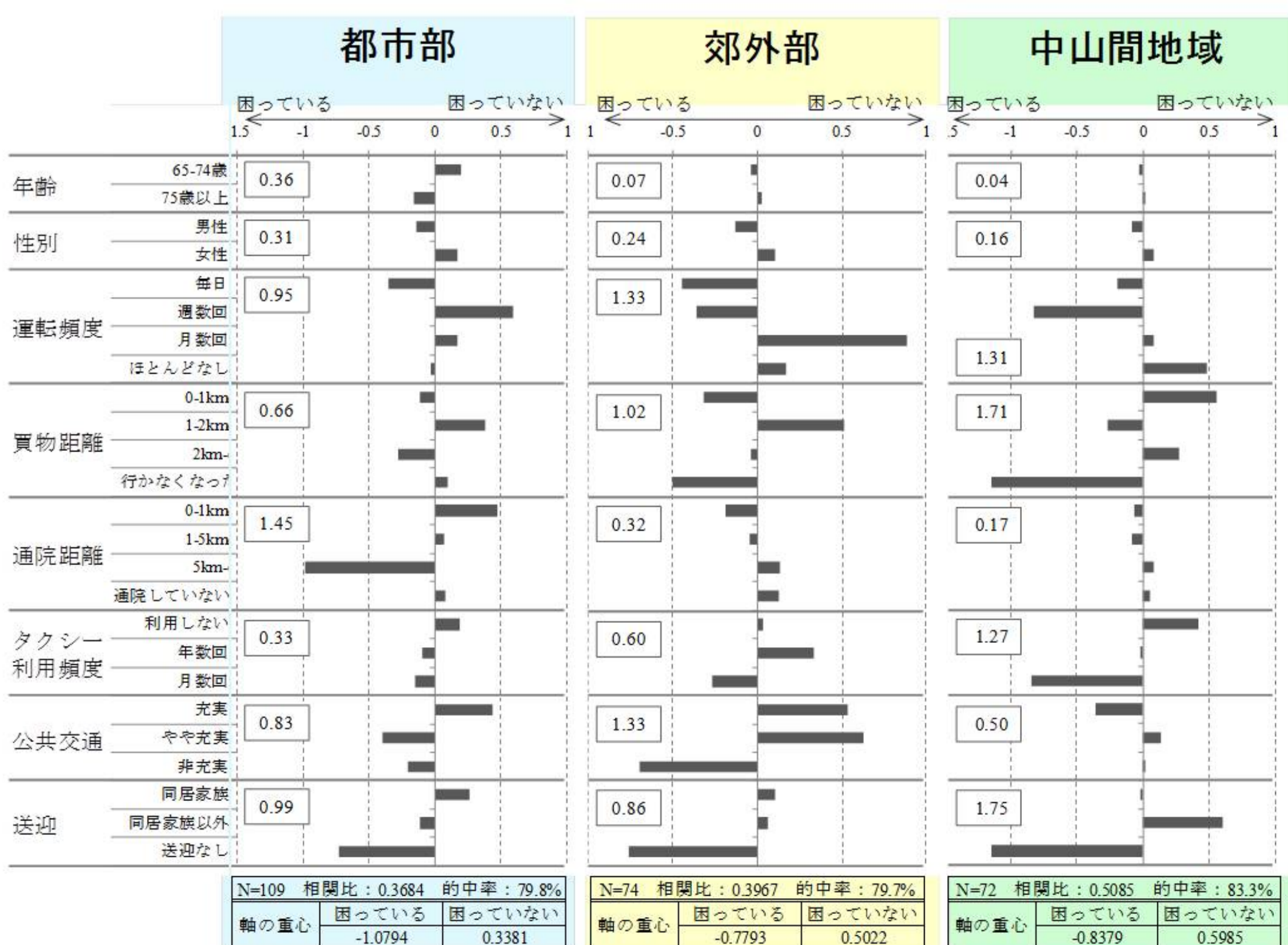
◆ 返納前後での事故経験



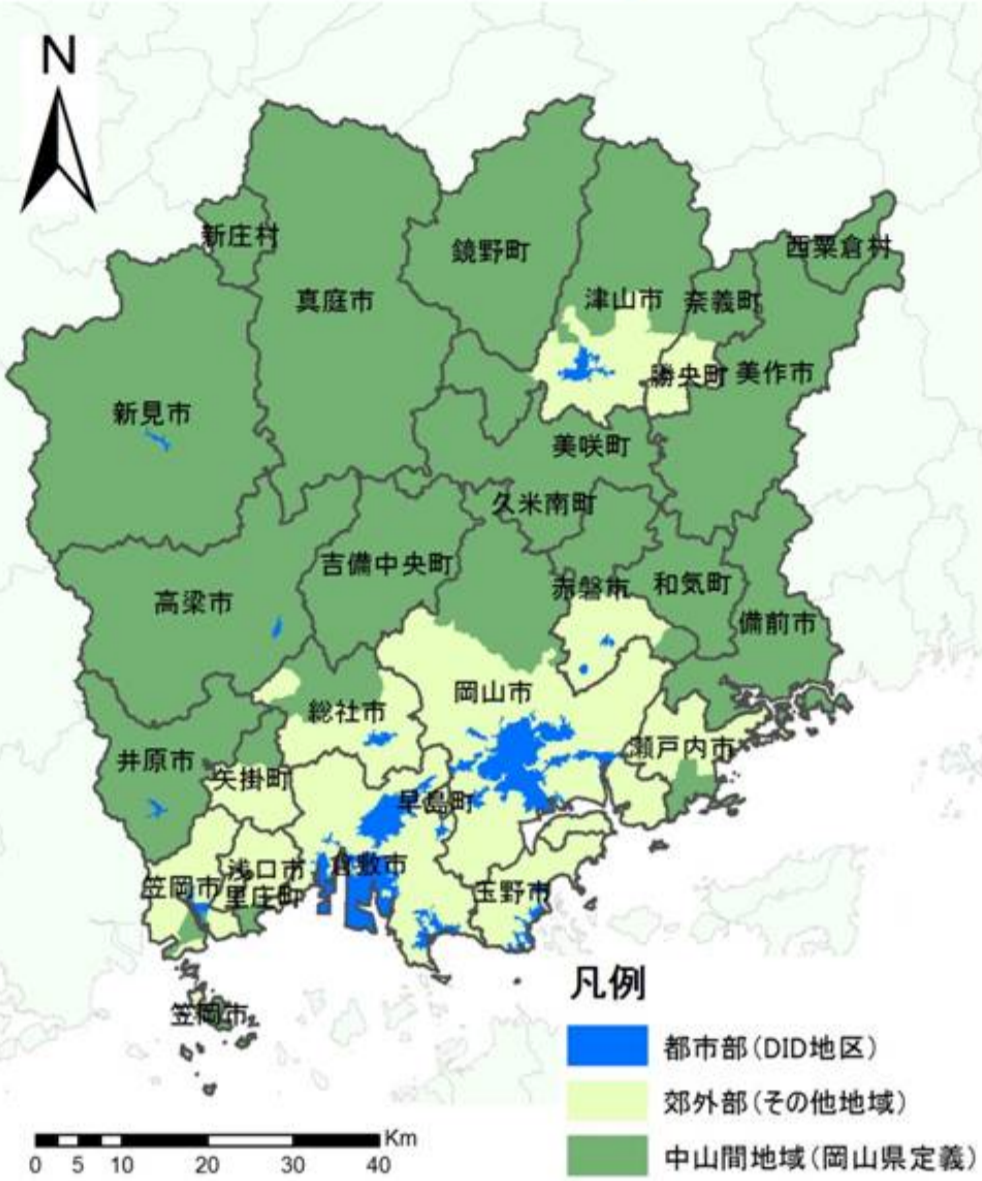
◆ 運転状況と認知症



◆ それぞれの地域での返納後の生活に困る要因分析



分析対象地域と使用データ



岡山県 免許返納に関する取り組み「おかやま愛カード」



平成23年11月25日～
65歳以上の返納者に無料で発行

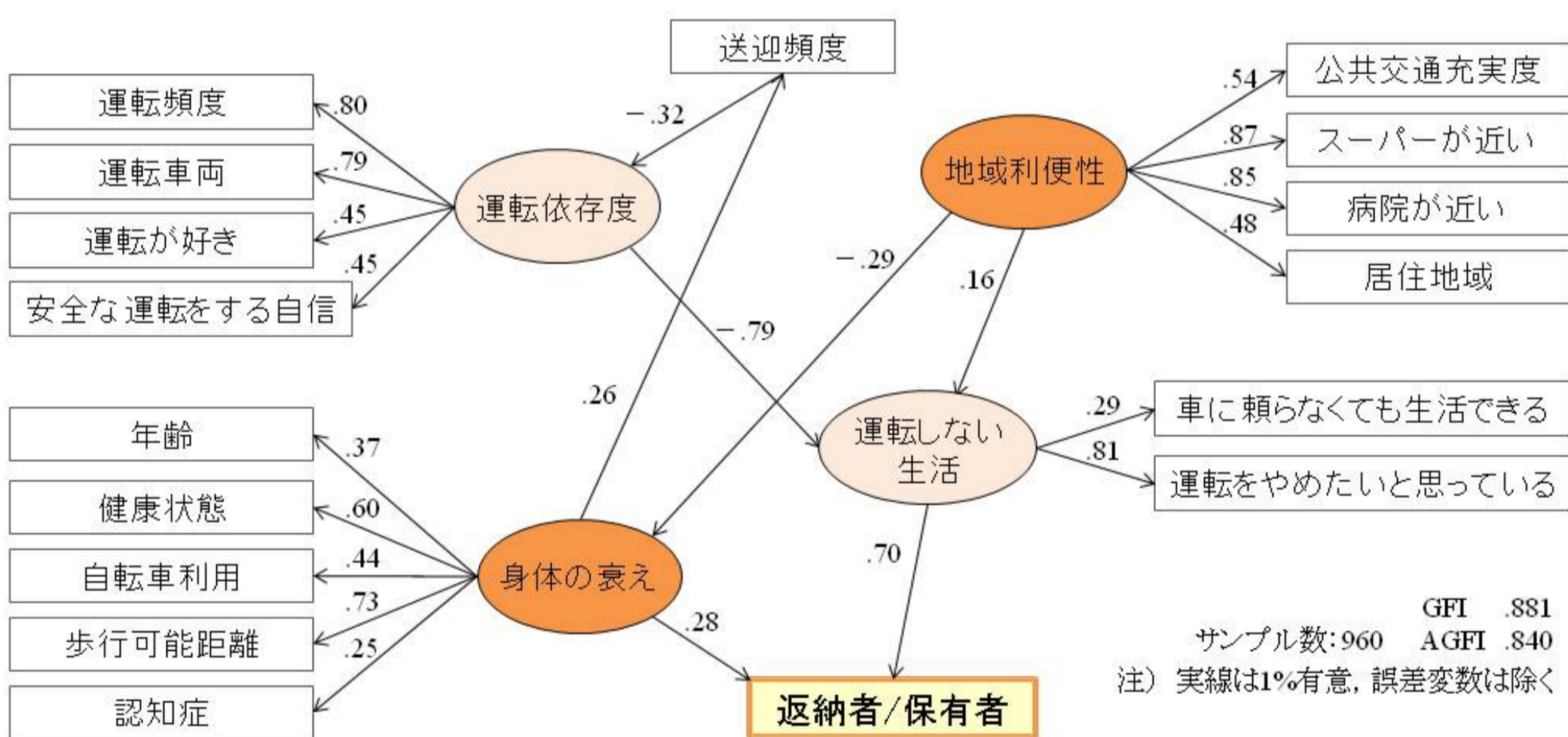
返納者に対する支援策

- ・ 県内すべての路線バス・井原鉄道 水島臨海鉄道の運賃が半額
 - ・ 一部協賛タクシーの運賃1割引
 - ・ 協賛店での割引サービスなど
- 協賛店は全1,708店(2013年1月)

アンケート調査の概要

調査名	アンケート調査1	アンケート調査2	アンケート調査A	アンケート調査B
	免許返納者本人へのアンケート	免許返納者の家族へのアンケート	免許返納者の安全・安心な生活環境を考えるためのアンケート	高齢ドライバーの安全・安心な生活環境を考えるためのアンケート
調査対象者	返納者 (愛カード取得者)	返納者の家族	返納者 (愛カード取得者)	保有者
対象者抽出方法	警察署ごとに年齢・性別に偏りがないように無作為に抽出	アンケート調査1対象者である返納者の家族	対象地域内に居住する愛カード取得者の中から無作為に抽出	対象者の年齢構成割合が岡山県の免許保有者の構成割合と同様となるように調整し年代別に無作為に抽出
調査対象地域	岡山県全域		都市部:岡山市・倉敷市のDID地区 中山間地域:井原市・高梁市・新見市の全域	
調査時期	2010年12月～2011年2月		2012年1月11日～1月27日	
調査方法	電話による聞き取り調査		郵送配布・郵送回収	
配布数	-	-	1,234部	1,240部
有効サンプル数	379部	313部	802部	893部
回収率	-	-	65.0%	72.0%

◆ 返納者と保有者の違いに関する意識構造分析



結論

交通安全

免許返納には**交通事故を削減**する効果あり
認知症が疑われる人でも車を運転している場合が少なくない

返納を判断する際の意識構造は、その人が居住する「**地域**」の環境によって変わってくるものと考えられる

都市部

車がなくても生活しやすい
自分から運転をやめる決断をする人が多い
⇒ 返納制度の認知を高めていくことが重要

中山間

車がないと生活が難しい
体力の低下・体調の悪化など身体が衰え
家族に説得され、**支えられて返納**する
⇒ 家族の負担軽減、返納者の自立した生活をサポートしていくことが必要